

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十一主日礼拝 2020年8月16日

前奏：

招きのことば：詩編 57：8-12

わたしは心を確かにします。神よ、わたしは心を確かにして あなたに賛美の歌をうたいます。
目覚めよ、わたしの誉れよ 目覚めよ、豎琴よ、琴よ。わたしは曙を呼び覚まそう。
主よ、諸国の民の中でわたしはあなたに感謝し 国々の中でほめ歌をうたいます。
あなたの慈しみは大きく、天に満ち あなたのまことは大きく、雲を覆います。
神よ、天の上に高くいまし 栄光を全地に輝かせてください。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちの祈りを聞いてくださいます。私たちはつい自分の知識や経験や立場にたよってしまい、またそれらの故にあなたの前に出ることができると考え違いをしてしまうものですが、あなたは私たちを愛し、イエス様によって罪を赦し、神の子として歩むいのちを与えてくださいました。あなたの憐れみの故に、絶望せず、現実に向き合って、平安と愛をもって人々のために歩むことを得させてくださいます。心から感謝をいたします。今週も神様のみ言葉に導かれ、人々を大切にするすばらしい一週間にしてください。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ 11 章 1-2a、29-32 節

では、尋ねよう。神は御自分の民を退けられたのであろうか。決してそうではない。わたしもイスラエル人で、アブラハムの子孫であり、ベニヤミン族の者です。神は、前もって知っておられた御自分の民を退けたりなさいませんでした。

神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けています。それと同じように、彼らも、今はあなたがたが受けた憐れみによって不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今憐れみを受けるためなのです。神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 15 章 10-28 節

それから、イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである。」そのとき、弟子たちが近寄って来て、「ファリサイ派の人々がお言葉を聞いて、つまずいたのをご存じですか」と言った。イエスはお答えになった。「わたしの天の父がお植えにならなかった木は、すべて抜き取られてしまう。そのままにしておきなさい。彼らは盲人の道案内をする盲人だ。盲人が盲人の道案内をすれば、二人とも穴に落ちてしまう。」

するとペトロが、「そのたとえを説明してください」と言った。イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。すべて口に入るものは、腹を通して外に出されることが分からないのか。しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、

姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。これが人を汚す。しかし、手を洗わずに食事をして、そのことは人を汚すものではない。」

イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。すると、この地に生まれたカナンの女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫んだ。しかし、イエスは何もお答えにならなかった。そこで、弟子たちが近寄って来て願った。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」イエスは、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、「主よ、どうかお助けください」と言った。イエスが、「子供たちのパンを取って小犬にやってははいけない」とお答えになると、女は言った。「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」そこで、イエスはお答えになった。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」そのとき、娘の病気はいやされた。

讚美歌 352 番

1. あめなる喜び こよなき愛を、たずさえくだれる わが君イエスよ、
救いの恵みを あらわに示し、いやしきこの身に 宿らせたまえ。
2. いのちをあたらうる 主よ、とどまりて、われらの心を とこ宮となし、
あしたにゆうべに 祈りをささげ、たたえの歌をば 歌わせたまえ。
3. われらを新たに つくりきよめて、さかえにさかえを いや増しくわえ、
み国にのぼりて み前にふす日、み顔の光を 映(うつ)させたまえ。 **アーメン**

説教：「あなたの信仰は立派だ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

あなたの信仰は立派だ、と言われた人はどんな信仰をもっていたのでしょうか。悩みの日に神様によりたのむ信仰です。この人はティルスとシドンの地方に生まれ育ったカナンの女でした。この地方は現在はレバノンに属し、ベイルートから海岸線を南へ下ったところにある文明の進んだ豊かな港湾都市でした。マタイの福音書 11:21 を見ると、イエス様はティルスとシドンの地方の人々はみ言葉を聞く機会があれば悔い改めて神様に立ち返るであろう人々だと知っておられました。イエス様は弟子たちを連れてこの地方に立ち寄り、立派な信仰の人に会わせました。

私たちはこの数週間の日曜日に、お弟子たちに信仰を教えたイエス様の歩みを読んできました。お弟子たちはイエス様からお話を聞いて、実際に体験を通してイエス様を信じることを学びました。イエス様はお弟子たちに信仰の訓練をしていたのです。

お弟子たちはイエス様から4つの種のとえを聞き、毒麦とよい麦のとえを聞き、からし種の信仰のとえを聞きました。そして、実際に5つのパンと2匹の魚で5000人以上の人々を満腹にするイエス様の奇跡を目の当たりにし、そしてその食べ物を人々に配る役割を与えられました。そのあと湖を舟で渡ったのですが、嵐のために苦しんでいたところ、水の上を歩いて弟子に近寄ってくださったイエス様のことを「幽霊だ！」と叫んでしまいました。そして、ペテロがあなたが本当にイエス様であるなら水の上を歩いてあなたのところへ行かせてくださいと願いました。ペテロは少しだけ実際に歩いたのですが周りを見てしまいイエス様から目が離れて体が沈みおぼれそうになって、主よ、助けてください、と叫びました。イエス様はすぐに手を伸ばしてペテロを捕まえて、「信仰の薄いものよ、なぜうたがったのか」と言われました。これらはすべてガリラヤ湖のある地方での出来事です。

ガリラヤを出る前に、エルサレムから来たファリサイ派と律法学者の人々がイエス様のことを責めました。自分たちが大切にしている食事の前の手洗いをイエス様の弟子たちがパンを食べる前に手をあらわなかったことを責めたのです。これは衛生上のことではなく、宗教上の汚れにかんすることでした。イエス様はそれにこたえて、そういう彼らの矛盾を指摘しました。彼らは神様のことばよりも自分たちの言い伝えを都合よく優先しているという矛盾です。父と母を敬えと聖書は命じているのに、人々が両親のために使うお金を自分たちにささげるならそれでよい、その人は父と母を敬わなくてよい、と教えていたからです。食事前の手洗いも同じで、彼らはそのような言い伝えの数々をきっちりと守っていくことで神様の民であることを自覚し、また立証していくことを大切に考えていました。イエス様は自分たちの言い伝えを聖書のことばよりも都合よく優先している彼らを偽善者と呼びました。そして弟子たちに、心が罪深いので人々は汚れているのであって、食べ物人が汚すのではない、と教えました。外面的に熱心に敬虔に生きることできよくなるのではなく、生まれつき罪びとである私たちの心が私たちが神様の前で汚れたものとしている、ということです。ファリサイ派と律法学者の人々は、神様の前に自分の内側からこみ上げてくるどうしようもない罪の性質を認めて悔い改めて神様の憐れみを信じることよりも、自分たちのつくったこまごまとした言い伝えを守ることで自分を防衛しようとしていたのです。そしてそれがただしい信仰の在り方だと確信し、自分たちだけではなく人々にも教えていたのです。

ガリラヤではこのようにパンを5000人以上のイスラエルの民衆に与えました。おぼれそうになって助けてくださいと叫ぶペテロに信仰の薄い者よ、と言われました。パンを食べる前の手洗いのことでイスラエルの指導者たちと問答をしました。お弟子たちはこのようにして信仰の

訓練を受けていきました。このようなことがあって、イエス様はお弟子たちを連れて異邦人のまち、ティルスとシドンの地方に行きました。

そこに着くと、一人の母親がイエス様に叫びました。娘が悪霊に苦しめられているので私を憐れんでください、と叫びながらイエス様の一行につきまといました。何もお答えにならないイエス様にお弟子たちは、この人の叫び声がうるさいので追い払ってくださいませんか、と頼みました。イエス様はわたしはイスラエルの家の失われた羊のところ以外には遣わされていない、とお弟子たちにお答えになりました。それを聞いていたこのお母さんは、それまで後ろの方からついてきていたのですがこのときイエス様の前に来てひれ伏して、どうか助けてください、と言いました。イエス様ははじめてこの女性に声を掛けました。しかしそれはイスラエルの人々への恵みを異邦人に与えることは正しくない、ということでした。冷たく聞こえるこの言葉を注意深く聞いたこのお母さんは、普通人々が異邦人を軽蔑をこめて野犬とよぶのに対して、イエス様が自分たち異邦人のことを家で飼う子犬という言葉を用いてあらわしておられることに気づいたのでしょう。子犬は家のなかで過ごします。子犬は食卓からおちるパン屑は食べます。お母さんは必死の思いで、イエス様、あなたのおっしゃることはそのとおりです。でも、子犬ならテーブルから落ちたパン屑はいただきます、と答えました。

イエス様はこの答えをおほめになりました。あなたの信仰は立派だ、と言われました。そして娘の病気をいやしてくださいました。

湖で弟子たちもペテロも身の危険を感じて叫びました。このお母さんもイエス様に助けてください、あわれんでください、と叫んでいます。イスラエルの民衆はパンと魚で満腹になりました。このお母さんはパン屑でもいただければ幸いです、と考えています。イスラエルの指導者たちは、自分の得になるのであれば両親を敬うという神様の戒めも破っていい、と教えていましたが、このお母さんは娘のためにイエス様がお答えくださるまで食い下がってお願いしています。

この女性は立派な何かをもっていたでしょうか。知識、経験、立場など、イスラエルの人々が心のなかでより頼んでいたものは何も持っていません。むしろ何も持っていない者として、ただイエス様のあわれみだけにより頼んでイエス様のところに来ています。叫んでいます。つきまっています。実を結ぶ信仰は、イエス様のことばを聞いてすぐ忘れてしまうものではありません。わが子のためにイエス様に求めます。イエス様のことばを聞いて信じて何か苦しいことがあったら離れてしまうものではありません。叫び続けます。またイエス様のことばを聞いて従っていても、内側からこみ上げる自分中心で世の誘惑にまどわされ、世の力から自分を守ることで精いっぱいイエス様から目が離れてしまう信仰ではありません。立派な信仰は、自分もともと神様のあわれみを受ける資格はないし、神様に愛される要素は何もない、と自覚

しながら、それでもイエス様がみ言葉の通りわたしを大切にし、わたしのために十字架にかかって身代わりに罪を償い、わたしに身に余る生きがいと深い平安と喜びを与えてくださることを信じきっています。神様はただしいかたであることを信じ、その方が罪びとのわたしをイエス様によって正しく赦して神様の子どもとしてくださることを信じきって願うのです。

そのような信仰は口先の信仰ではありません。イエス様のあわれみによりたのむ真実な信仰です。そのような信仰は自分の立派さを覚えていません。わたしは飼い主に愛されている取るに足らない子犬です、と自覚しています。知識も不十分で、神様に喜ばれる実績もなく、身分不相応なお願いをしているとわかっています。心の内側からの思いが私を汚している、と罪の自覚があります。しかし、それとともに、聖書の約束であるイエス様による罪の赦しと、イエス様による新しいいのちを信じて、すぐに神様のお答えをいただくように感じなくても、イエス様、わたしをあわれんでください、と信じて叫び続けるのです。

あなたはいかがでしょうか。私たちも旧約聖書で約束されている神様の民、イスラエルのものではありません。イスラエルの人は自分たちの救い主のイエス様を受け入れなかったので、救いは異邦人にも広げられ、そのようにして神様の救いは全世界の人に及ぶようになりました。そしてイスラエルの人も世界の救い主であるイエス様を信じるようになるのです。

私たちには自分の誇るものがなにもありません。知識も、経験も、立場も、神様に愛される資格はありません。しかし、このお母さんのように、祈りがあります。そして、自分のまちに、自分のところに来てくださったイエス様のお言葉を信じて、主よ、憐れんでください、と祈るのです。イエス様は沈むペテロを助けてくださいました。イエス様から目が離れて疑ってしまったので、信仰が薄いな、とおっしゃいました。イエス様はお弟子たちに立派な信仰を教えてくださいました。そして、それはイエス様が与えてくださるみ言葉に力があるから与えられる信仰です。4つの種のたとえのように、種にいのちがあります。

この一週間、あなたは何を祈りながら歩まれるでしょうか。だれの幸せのために生きるでしょうか。小さな、罪深い、神様の前には何もさしだすものがない、そんなあなたは神様にきいていただく大それた期待をもっていいのでしょうか。はい、普通わたしたちは自分のもっている何かに信頼しています。知識、経験、立場、などいろいろなものにしがみついています。神様のまえにはあなた自身でできるしかありません。そしてイエス様はすでに、あなたの罪を赦してあなたを受け入れ、あなたの信仰を育ててくださいます。「イエス様、ダビデの子、救い主のイエス様、わたしをあわれんでください」と祈りつつ、豊かな一週間を過ごしましょう。イエス様のあわれみによってその祈りは聞かれます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

讚美歌 514 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 弱きものよ、われにすべて まかせよやと 主はのたもう。
 <繰り返し> 主によりて あがなわる、わが身の幸は みな主にあり。
- 2 岩のごとく かたき心 くだくものは み力のみ。 <繰り返し>
- 3 われに何の いさおしあらん、ただ主の血に きよくせらる。 <繰り返し>
- 4 死の床より起くるその日、勇み歌わん 主のみいさお。 <繰り返し> **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄(みさか)えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**。

後奏